

エコアクション21

環境経営レポート

(2025年9月1日～2026年8月31日)

性能を追求する彼へ



2026年10月20日発行

株式会社 アート1

(第8版)



目次

1. 組織の概要	P-2
2. 対象範囲	
3. 環境経営方針	P-3
4. (基準年の環境負荷と) 環境経営目標、次年度及び中期目標	P-4
5. 環境経営計画 及び環境経営計画に基づき実施した取り組み内容 目標及び計画の実績・取組み結果、次年度の取組	P-5
6. 環境経営目標と実績	P-6
7. 株式会社アート1 エコアクション21実施体制	P-7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P-8
9. 代表者による評価と見直し・指示と次年度計画	P-9
10. 「やまとの環境をよくする会」活動状況	P-11

ご挨拶

当社はアルミニウムおよびマグネシウムの表面処理専門企業です。素材に高い耐食性や耐摩耗性等の機能性を付与する技術により、製品を錆びにくく、製品同士の摩擦による減量を抑制し、寿命を延ばし、資源の節約を図り、日々努力することにより、環境負荷削減に努めております。

当社は今後も表面処理を通して、限りあるアルミニウムやマグネシウムの貴重な資源を節約し、環境問題に社員一丸となって貢献していきます。

理念

誠意をもってことにあたり、
技術を軸に社会に貢献する。

株式会社アート1



1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 アート1

代表取締役 秋本 政弘

(2) 所在地

認証・登録範囲：本社・第1工場	神奈川県大和市下草柳8 2 2－3
第2工場	神奈川県大和市下草柳8 6 4－2
第3工場	神奈川県大和市下草柳8 6 4－3

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 井口 博

担当者 井口 博

連絡先 電話 046-264-1311

F A X 046-264-7010

E-mail hinkan@artf.jp

(4) 事業活動の内容

アルミニウムとマグネシウムの陽極酸化処理及び化成処理

(5) 事業の規模

資本金：10,000千円

活動規模	単位	本社・第1工場・第2工場・第3工場
売上高	百万円	非公開
従業員数	人	42
延床面積	m ²	2,252

(2026年8月31日現在)

2. 対象範囲

(1) 認証・登録対象組織

本社・第1工場及び第2工場、第3工場（所在地は1 (2) に記載）

(2) 認証・登録対象活動

本社・第1工場及び第2工場、第3工場で行うなう事業活動
(アルミニウムとマグネシウムの陽極酸化処理及び化成処理)





環境方針

基本理念

株式会社 アート 1は、アルミニウムとマグネシウムの陽極酸化処理及び化成処理の生産活動を通じて、社会情勢の変化に対応しながら環境保全への取り組みを重要な課題とし、地球環境の保護、資源の有効活用および環境汚染防止を推進し、環境保全活動の質を継続的に向上させます。

環境経営方針

1. 環境に関わる法令・要求事項を順守します。
2. 事業活動によって生じる環境負荷を認識し、環境汚染の予防に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善につなげます。
3. 目標を設定し、CO2排出量・水資源投入量・電力使用量・化学物質使用量・廃棄物排出量の、削減に努めます。
4. 環境方針は、全員に周知するとともに一般に公開します。
5. 環境目標の達成及び環境改善のため、高効率設備等へ経営資源を積極的に投入します。

2024年5月22日

株式会社 アート 1

代表取締役 秋本政弘

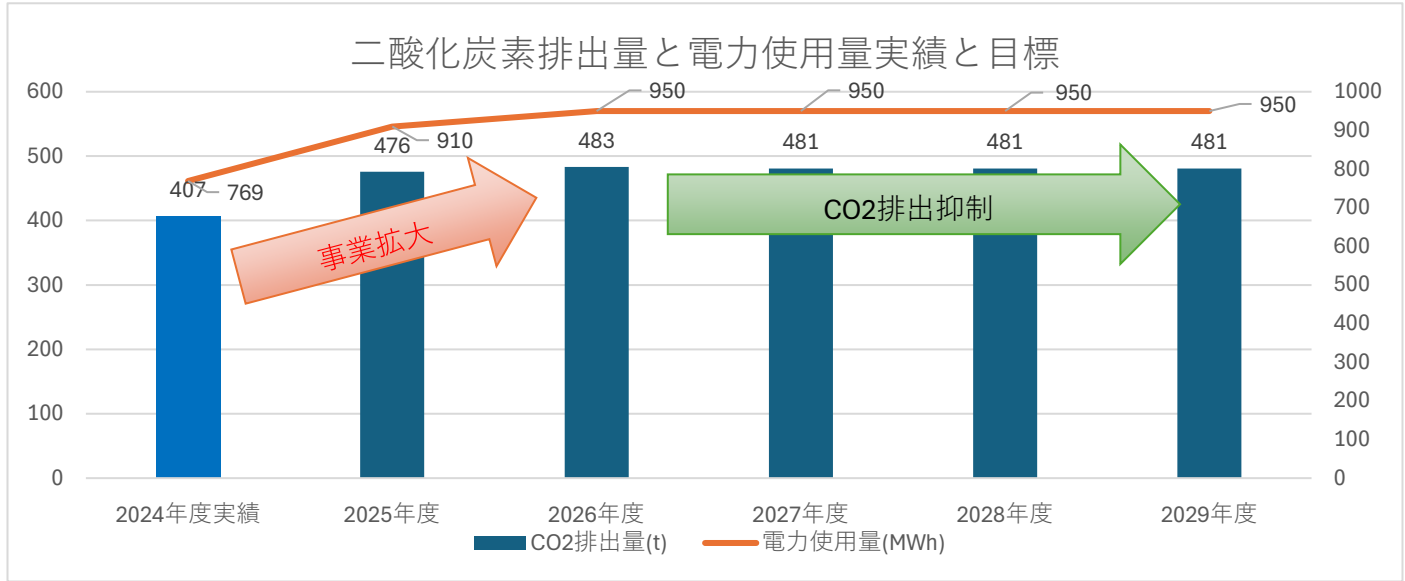
4. 基準年の実績と環境経営目標、次年度及び中期目標



承認	作成
秋本政弘	桜庭ルミ

環境経営目標 実施項目と目標値	年度 単位	基準年（前 年度）実績 2024 年度 自 2024 年9月 至 2025 年8月	環境経営目標				
			2025 年度 2025 年9月 2026 年8月	中期目標			
				2026 年度 2026 年9月 2027 年8月	2027 年度 2027 年9月 2028 年8月	2028 年度 2028 年9月 2029 年8月	2029 年度 2029 年9月 2030 年8月
1.二酸化炭素排出量の抑制	ton -CO2	407	計画排出量 476	計画排出量 483	暫定目標 481	暫定目標 481	暫定目標 481
1.1電力使用量の抑制	MWh	769	事業計画 910	事業計画 950	暫定目標 950	暫定目標 950	暫定目標 950
1.2トラック燃費の向上 （軽油）	kℓ	19.00	基準年並み抑制 19.00	基準年並み抑制 19.00	基準年並み抑制 19.00	基準年並み抑制 19.00	基準年並み抑制 19.00
2.産業廃棄物の排出抑制 （脱水汚泥、廃プラ、木くず、混合）	kg	41,968	基準年比 99% 41,548	基準年比 98% 41,129	基準年比 97% 40,709	基準年比 96% 40,289	基準年比 95% 39,870
3.水資源投入量の削減	m³	4,848	事業計画 6,570	事業計画 8,400	前年比99% 8,316	前年比99% 8,233	前年比99% 8,151
4.第一種指定化学物質 使用量の抑制	k g	281.2	事業計画 400.0	基準年比99% 278.4	基準年比98.5% 277.0	基準年比98% 275.6	基準年比97.5% 274.2
4.1六価クロム 使用量の抑制	k g	14.35	事業計画 35.00	事業計画 30.0	事業計画 30.0	事業計画 30.0	事業計画 30.0
5. 環境性能向上 ・サービス改善	—	—	環境対応設備と六価クロム処理工場の分離 高効率電力設備の導入（本社・第1工場：受変電設備、冷凍・空調機器他） 低GWP新冷媒空調機器の導入（R32空調機器：GWP値1/3） 新型冷凍機械の導入（冷媒R410A→R463AJ:GWP 2/3（1500未満クリア）、水冷→空冷：冷却塔の水・電気不要化）、新冷却システム（電解液）の採用				

※電力CO2排出係数：電力1：0.000452ton-CO2/kWh、電力2：0.000415ton-CO2/kWh)



※施設拡張による事業拡大を見込んでいる。

5. 環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

目標及び計画の実績・取組み結果、次年度の取組

環境経営計画	取組結果とその評価 (2025 年9月 ～ 2026 年8月)				
	環境目標	実績 (計画比)	単位	評価	評価、次年度の取組内容
1. 二酸化炭素排出量の抑制 ・ 電力抑制及び熱源の電化によるLPG削減	計画排出量 475.7	97.7% 464.6	t ・ c o 2	○	新本社工場の稼働により施設面積は2倍以上に拡張したが、省エネ設備によって抑制できている。次年度電力契約先変更により排出係数を下げる予定。
1. 1電力使用量の抑制 ・ 省エネ機器への更新 ・ 節電の取組	計画使用量 910.0	100.0% 909.9	M W h	○	新設備により使用量は増えている。授業拡張と電力利用の効率化により、事業ベースでの電力削減を図る。
1. 2トラック燃費の向上 ・ エコドライブの徹底	前年比 維持 19.00	92.5% 17.57	kg	○	エコドライブが徹底できている。配送力UPを計画しているが、消費目標は維持。
2. 産業廃棄物の排出量抑制 ・ 3Rの推進 ・ 保護資材の再利用や返却	前年比99% 41,548	71.9% 29,890	kg	○	効果的に削減できている。排水負荷の低減と3R活動により排出抑制を継続する。
3. 水資源投入量の削減 ・ 水利用の効率化 ・ 節水	事業計画 6,570	83.4% 5,478	m ³	○	設備を拡張しているが、節水の徹底により計画未達に抑制されている。
4. 第一種指定化学物質使用量の抑制 ・ 液ろ過で長寿命化 ・ 処理計画の工夫	事業計画 400.0	99.9% 399.8	kg	○	事業拡大による計画に対してほぼ計画通りであるが、予定外の設備拡張あり。次年度は使用量抑制を図る。
4. 1六価クロム使用量の抑制 ・ 液ろ過で長寿命化 ・ 処理計画の工夫	事業計画 35.0	122.1% 42.7	kg	×	受注胸像によりCr(VI)フリー移転後の旧設備利用して設備拡張したため、計画外の使用が発生。次年度は設備計画なく、液切りの徹底により使用量抑制を図る。
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善					
① 環境対応設備と六価クロム処理工場の分離	実施			○	第3工場Cr(VI)・第1工場ノンCr(VI)に化成処理を完全分離。
② 高効率電力設備の導入(本社・第1工場:受変電設備、冷凍・空調機器他)	新工場稼働			○	本社・第1工場稼働(新基準設備)、第2工場トランス更新必要。
③ 低GWP新冷媒空調機器の導入(R32空調機器:GWP値1/3)	新設備導入			○	新冷媒機器設置完了。
③ 新型冷凍機械の導入(冷媒R410A→R463AJ:GWP 2/3(1500未満クリア)、水冷→空冷:冷却塔の水・電気不要化)、新冷却システム(電解液)の採用	新工場稼働			○	第1工場新冷媒空冷冷凍機設備未完部分あり。 第2工場から第1工場への移転をスピードアップする必要あり。

○：目標達成、×：目標未達

(注) 次年度計画は、P-9を参照。

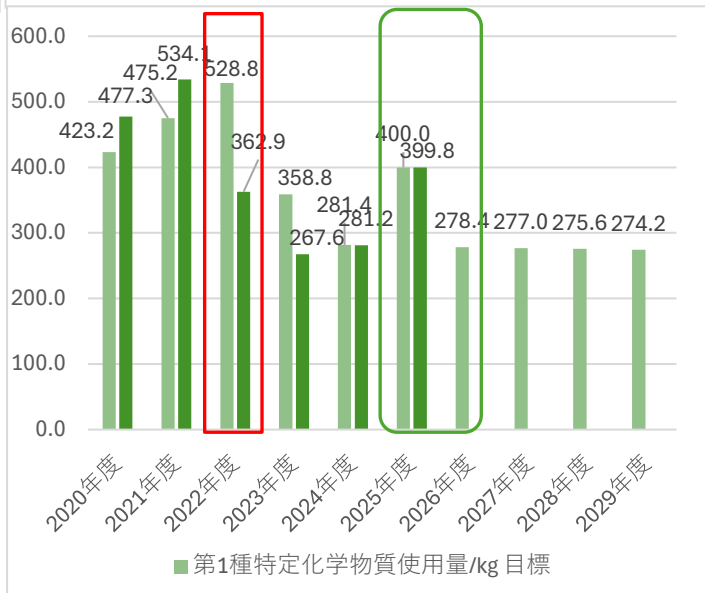
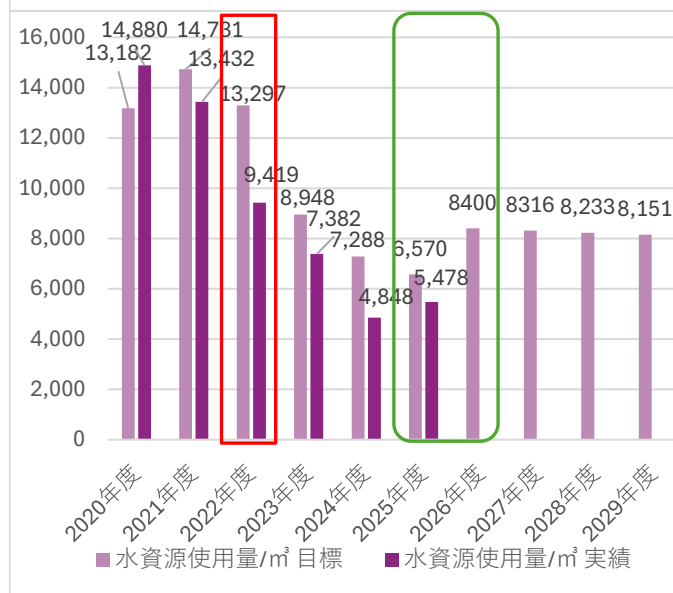
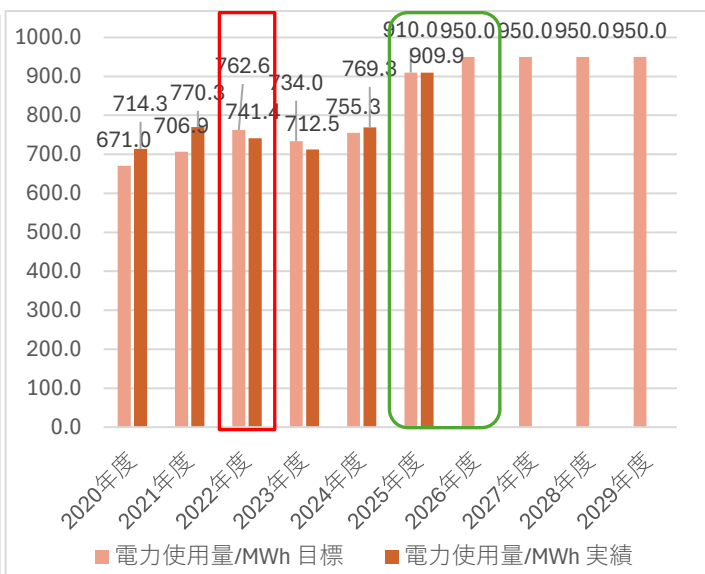
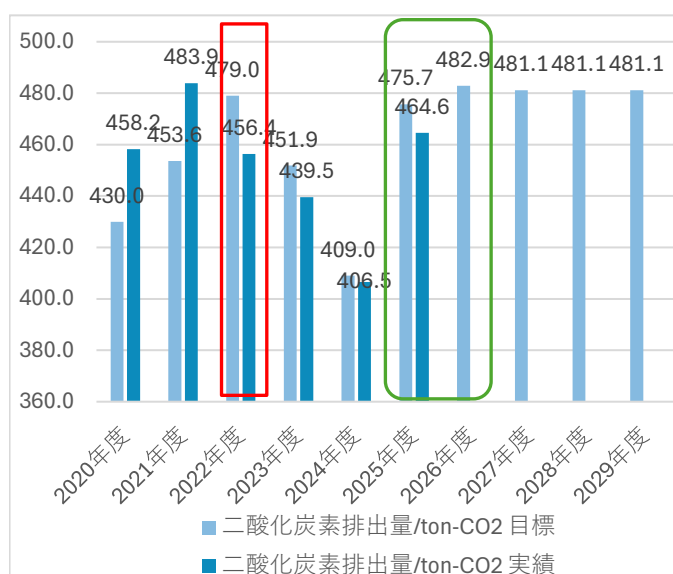
6. 環境経営目標と実績

主な環境経営目標項目別目標/実績対比表

		2020年9月～ 2021年8月	2021年9月～ 2022年8月	2022年9月～ 2023年8月	2023年9月～ 2024年8月	2024年9月～ 2025年8月	2025年9月～ 2026年8月	2026年9月～ 2027年8月	2027年9月～ 2028年8月	2028年9月～ 2029年8月	2029年9月～ 2030年8月
環境経営目標	T/R	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
二酸化炭素排出量/ton-CO2	目標	430.0	453.6	479.0	451.9	409.0	475.7	482.9	481.1	481.1	481.1
	実績	458.2	483.9	456.4	439.5	406.5	464.6				
環境経営目標	T/R	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
電力使用量/MWh	目標	671.0	706.9	762.6	734.0	755.3	910.0	950.0	950.0	950.0	950.0
	実績	714.3	770.3	741.4	712.5	769.3	909.9				
環境経営目標	T/R	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
水資源使用量/m³	目標	13,182	14,731	13,297	8,948	7,288	6,570	8400	8316	8,233	8,151
	実績	14,880	13,432	9,419	7,382	4,848	5,478				
環境経営目標	T/R	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
第1種特定化学物質使用量/kg	目標	423.2	475.2	528.8	358.8	281.4	400.0	278.4	277.0	275.6	274.2
	実績	477.3	534.1	362.9	267.6	281.2	399.8				

2022年12月末本社工場建替えの為第2工場へ集約↑

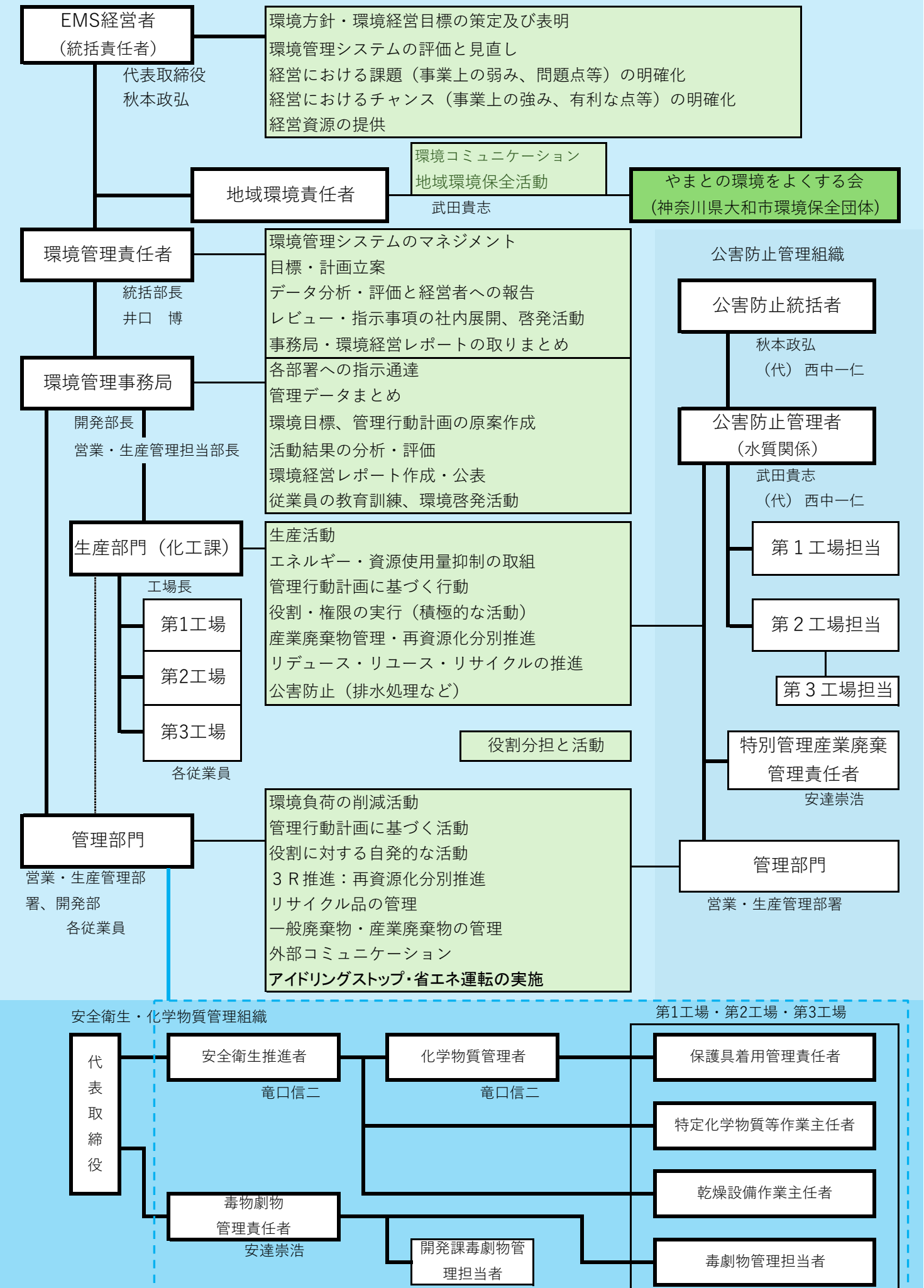
↑2026年4月新本社へ移転、第3工場の一部を第1工場へ移転
2026年7月～第2工場の一部を第1工場へ移転開始



本社工場建替えの為閉鎖、第2工場へ生産集約（第2工場の分工場として第3工場稼働）

新本社・第1工場稼働（第2工場・第3工場生産の一部を第1工場へ移転）

7. 株式会社アート1 環境管理（EMS・エコアクション21）実施体制



8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

○ 関連する代表的な環境関連法令は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項（施設、物質、事業活動等）及び対応状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	水質汚濁防止法該当（水質有害物質使用特定施設） 第1工場、第2工場、第3工場 実施体制はP-7（実施体制）参照。
水質汚濁防止法 神奈川県生活環境保全条例	水質有害物質使用特定施設 本社・第1工場、第2工場、第3工場（アルマイトその他金属表面処理） 設備不浸透化及び定期点検実施
大気汚染防止法 神奈川県生活環境保全条例	ばい煙発生施設等対象施設無し 排気洗浄設備設置（自主規制）
下水道法 大和市下水道条例	第1工場・第2工場場排水施設（除害施設）監視対象：pH、N、F、Cr、SS、BOD、n-HX 還元中和沈殿処理、汚泥脱水処理 生活雑排水排出：本社・第1工場、第2・第3工場
廃棄物処理法	本社・第1工場及び第2工場・第3工場 一般廃棄物・産業廃棄物は適正処分（焼却又は埋立処分等処理委託）
PRTR法	第1工場及び第2工場・第3工場（取扱量は指定数量未満）
フロン排出抑制法	本社・第1工場及び第2工場・第3工場（冷凍空調機器） 定期点検実施、対象期間中に廃棄無し
毒物劇物取締法	第1工場、第2工場、第3工場 適正に管理（無機シアン化合物取扱無し、取扱責任者選任等不要）
消防法 大和市火災予防条例	指定数量の1/5以上の危険物保管等該当なし
労働安全衛生法	従業員数50名未満：安全衛生推進者、化学物質管理者の選任等 P-7（実施体制）参照（特定化学物質（第二類、第三類）取扱作業等）
騒音規制法 振動規制法	対象設備無し 準工業地域敷地境界基準適合確認済み
高圧ガス保安法	冷凍保安規則対象設備等無し
省エネ法、地球温暖化対策の推進に関する法律	非該当（原油換算＜1,500kl／年） 自主的対応

○ 対象期間中に関係当局より違反等の指摘、及び近隣クレームや訴訟等はありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示と次年度計画

(1) 全体評価

電解電力の大きい硬質アルマイトの生産量増加に伴い、前期よりも電力需要が増加している。また、新本社工場稼働開始により施設規模が倍以上となっている。このため、電力は前期769.3MWhに対して約18.3%増加している。また、化成処理も増産となっており、電力に係るエネルギー需要は見込みよりも増加しているが、新施設の省エネ効果が大きく、施設拡大による電力消費を抑えられている。なお、設備投資に対して受注拡大を見込む必要があり、前期に新中期計画を作成した。経営拡大とともにエネルギー効率の向上を図る必要がある。電力消費について第2工場から第1工場への移転により、関電と東電の二酸化炭素排出係数の差から電力の二酸化炭素排出量が増加している。価格問題もあり、本社・第1工場の電力契約を東電から関電に11月から変更するため、第1工場生産増による計算上の二酸化炭素排出量増加は避けられる見込みとなった。化石燃料による二酸化炭素排出量が抑制できているため、合計排出量は抑制されている。営業活動強化により自動車の走行距離は増加する見込みであり、需要増と効率化を見込んで計画を見直す必要がある。

第2工場の水の使用量は引き続き削減できており、これは用水の効果的利用などの節水効果によるものである。第1工場の水使用量は計画内に抑制できている。

化学物質使用量は、第1工場新設及び増産によって増えているが、計画内にとどめている。但し、六価クロム使用量については、受注急増によって期末に急遽設備拡張を行ったために計画量を超過してしまっている。これは、外部要因による変動としてとらえる。設備拡張による一過性のものであり、2026年度以降の計画変更は行わない。

廃棄物は3Rが徹底出来ていると評価する。

EA21実施体制を見直し、フローを公害防止組織と安全衛生・化学物質管理組織との関連付けを実施。各従業員の役割分担を明確にすることで意識向上に効果があったと評価する。また、化学物質リスクを管理するとともに、酷暑対策として空調服を導入し、作業環境の改善と空調電力削減を両立させているが、従業員の省エネ意識が十分とは言えず、さらに環境啓発を推進する必要がある。

中東情勢及び円安によってエネルギー価格が上昇しており、コスト問題からもエネルギー節約のための活動を深化させる必要があり、太陽光パネルの設置などを課題として視野に入れ、検討を進める。

環境にやさしい工場を目指して、新本社・第1工場を建設したが、アルマイト設備の遅れにより第2工場からの移転が進んでいない。新設備によるエネルギー効率の向上を目指して、移転のための活動のスピードを上げる必要がある。第1工場の新設備を環境性能向上のチャンスとしている。

(2) 見直し・指示

1. 排水負荷の低減を図り、節水の徹底により水資源および環境負荷を低減する。
2. 電解及び冷熱機器利用の効率化、節電活動の深化により、電力量の削減を目指す。
3. 自動車燃料は、増員及び活動拡大による走行見込み計画により見直し、車両更新による燃費向上を検討課題とする。

(3) その他

環境経営方針は維持。

環境管理体制は期初に見直しを実施した。

2026年10月13日
代表取締役 秋本政弘

(3) 次年度計画

環境経営目標	2026年度目標	2026年度計画
1. 二酸化炭素排出量の抑制	483 t-CO ₂	省エネの推進、LPGから電気への熱源返還
1.1 電力使用量の抑制	950 MWh	第2工場から第1工場への硬質アルマイトの移転による省電力化、高効率機器への更新、3. 節電の取組
1.2 トラック燃費の向上(軽油kℓ)	19 kℓ	低燃費車両への更新(検討)、エコドライブの徹底、. 輸送ルート効率化
2. 産業廃棄物の排出抑制(脱水汚泥、廃プラ、木くず、混合)	41.13 t	液切りの徹底による排水負荷・汚泥発生量の低減、3 R活動の推進
3. 水資源投入量の削減	8400 m ³	水冷冷凍機から空冷冷凍機への切り替え、水洗サイクルの効率化、. 節水の徹底
4. 第一種指定化学物質使用量の抑制	278.4 kg	液ろ過などによる処理液の長寿命化、液切りの徹底による持ち出し量の低減
4. 1 六価クロム使用量の抑制	30 kg	適正な濃度管理による使用量の抑制、液切りの徹底による持ち出し量の低減
5. 環境性能向上・サービス改善 ・ 環境対応設備と六価クロム処理工場の分離／第1工場Non-Cr(VI)、第3工場クロメート(完全分離) ・ 高効率電力設備の導入(本社・第1工場: 受変電設備、冷凍・空調機器他) / 経年機器の更新 ・ 低GWP新冷媒空調機器の導入(R32空調機器: GWP値1/3) / 旧型空調機の廃止 ・ 新型冷凍機械の導入(冷媒R410A→R463AJ: GWP 2/3 (1500未満クリア)、水冷→空冷: 冷却塔の水・電気不要化)、新冷却システム(電解液)の採用 / 第1工場設備本格稼働への取組		

10. 「やまとの環境をよくする会」活動状況

株式会社アート1は、大和市の環境保全団体「やまとの環境をよくする会」の主旨に賛同して、この団体の理事として環境保全活動に参加しています。（武田貴志）

やまとの環境をよくする会(環境保全団体)

公害の未然防止や工場等の緑化の推進を通じて、快適な環境を創造し、うるおいのあるまちづくりに努め、豊かな自然の保護に寄与することを目的として活動する市内の工場・事業所等で組織される団体です。

- 事業
1. 公害防止技術の調査研究
 2. 環境保全に係る調査研究
 3. 環境緑化に係る調査研究
 4. 研修会、講演会、視察等の実施
 5. 環境の保全に係る啓発活動
 6. 関係行政機関との連携及び協力
 7. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

令和7年度活動状況

(活動の詳細は、<https://www.city.yamato.lg.jp/material/files/group/24/R7izumitomidori.pdf> を参照ください。)

活動

開催日、場所

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. 令和7年度総会 | 令和7年4月18日大和市文化創造拠点シリウス |
| 2. 第1回役員会 | 令和7年4月18日大和市文化創造拠点シリウス |
| 3. 第48回大和市民まつり | 令和7年5月10日(土)、引地台公園 |
| (1)事業所名パネル・会活動内容パネル等展示 | |
| (2)ゲームの実施 | |
| (3)募金活動(集まった募金は大和市みどり基金へ寄附) | |
| 4. みどり育成事業 | 令和7年5月29日(木)・アスク南林間保育園、南林間保育園、市内認可保育所にみどりのカーテンを設置 下和田保育園、こどもの城こども〜る大和保育園 |
| 5. 夏休み親子環境教室 | 令和7年7月30日中津川・箱根町立森のふれあい館 |
| 水生生物調査、森林散策を実施 | |
| 6. 臨時役員会(書面表決) | 令和7年7月29日(火)〜8月5日(火) |
| 7. 第2回役員会 | 令和7年10月15日大和市グリーンアップセンター 研修室 |
| 8. 河川美化活動 | 令和7年10月15日 引地川 |
| 川の清掃活動 (ふれあいの森ふれあい広場) | |



- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 9. やまと産業フェア2025 | 令和7年11月8日(土)、中央1号公園 |
| (1) 本会の活動を紹介するパネルを展示 | |
| (2) ゲームの実施 | |
| (3) 募金活動(大和市みどり基金へ寄附) | |
| (4) カブトムシ幼虫配布 | |

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 10. 第3回役員会 | 令和8年1月20日 大和市役所 会議室棟204 会議室 |
|------------|-----------------------------|

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 11. 緑地保全事業 | 令和8年1月20日 泉の森1号緑地 |
| 緑地清掃・伐採とクヌギ苗の植栽 | |



- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 12. 環境保全講習会 | 令和8年2月6日 大和市 |
| (1) 土壌汚染対策法の概要と土壌汚染の調査に・渋谷学習センター | |
| (2) 神奈川の大気汚染「光化学スモッグから子供たちを守るために」 | |

中央林間自然の森



エコアクション21認証

- ・対象事業所…本社・第1工場、第2工場、第3工場
- ・事業活動…アルミニウムとマグネシウムの陽極酸化処理及び化成処理
- ・認証・登録番号…0013131
- ・認証・登録日…2020年8月31日 有効期限…2028年8月30日



「アートンのアルマイトちゃんねる」もみてね!



▲YouTubeチャンネルはこちら



アートン(Artone)

職業：(株)アート1の宣伝隊長

表面処理という技術を世の中にもっと知ってもらうため、(株)アート1に突如現れた救世主。

主にHPやSNS、展示会などに登場し、広報部隊として当社の技術などをはじめとした様々な表面処理についてPRしていきます。

チャームポイント：つるんとしたおでこ

会社のロゴに似せたターバンっぽいカラフル帽子

性格：明るく社交的、好奇心旺盛、ポジティブシンキング

誕生日：2月1日

株式会社アート1のイメージキャラクターとして誕生しました。



株式会社 アート1

〒242-0027 神奈川県大和市下草柳 822-3

TEL 046-264-1311

FAX 046-268-7010

E-mail info@artf.jp